

結婚相手に求める条件

大津 隆文

先日韓国のテレビを見ていたら次のようなニュースが流れていて驚いた。

「最近の調査によれば、日本で結婚相手に求める条件として最重視するのは、男性は女性の経済力、女性は男性の容姿とのことで、以前と全く逆になりました」

本当かいな？と、出所とされた国立社会保障・人口問題研究所の資料に当たってみると、出生動向基本調査(2021年)が根拠と分かった。

調査項目の一つに「結婚相手に求める条件」がある。その結果は男女とも「人柄」がトップ、次いで「家事・育児の能力や姿勢」「仕事への理解と協力」と常識的な内容で一安心した。ではどうしてあのようなニュースが流れたのか？ 前回調査(2015年)と比べると、男性では「経済力」を求める割合が高まる一方「容姿」は低下、女性では「容姿」の割合が高まり「経済力」が低下している。おそらくこの変化をマスコミがプレイアップしたのであろう。

ではこの変化の背景をどう読み解けばいいのだろう。女性の経済力が高まってきて、男性にとっても頼りがいのある一方、女性自身の自立性の高まりをもたらしているということだろうか。かつて女性側が「三高」を求める時代があった。高学歴、高収入、高身長男性が憧れであった。それに対して最近は「四低」で、低姿勢、低依存、低リスク、低燃費の、女性の負担にならない男性が選好されるという。

さらに注目すべきは結婚する人が減っていることだ。男性の50歳時未婚率は、1960年の1%から2020年には26%へと大幅な増加だ(実はわが家の長男もその一人)。

今回の調査結果でも「いずれ結婚するつもり」と答える未婚者が減少している(男性85%↓81%、女性89%↓84%)。また、異性の交際相手を全く持たない未婚者は男性72%、女性64%と大変高い。そして未婚男女の3人に1人は異性との交際を望んでいないというのも衝撃的である。人は結婚するのが当然、という以前の社会の常識は変わってきているようだ。